

2017年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	インプリントまちだ展2017 ～絵描き・ながさわたかひろ、サッカー・FC町田ゼルビアでブレイク刷(す)ルー！～			担当者名	学芸係 町村悠香			
会期	2017年7月29日(土)～ 9月24日(日)			開催日数	50日間			
協賛・後援・協力	協力:FC町田ゼルビア							
巡回館	なし							
展覧会概要	本展は東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて4年間にわたり毎年開催する展覧会シリーズ「インプリントまちだ」の第一弾。招聘作家・ながさわたかひろの学生時代から現在に至るまでの活動の軌跡を紹介。さらに、「絵は声援に、応援は力になる。」という活動コンセプトをもとに、町田をホームタウンとするプロサッカークラブ「FC町田ゼルビア」の2017年シーズンの試合を描く新作を発表した。(展示数約250点)							
ねらい・対象	「インプリントまちだ」では、若手作家が町田に取材した新作を発表することで、アーティスト独自の視点で町田の魅力を発見し、またアートを通して地域の人々との関係性を深めることを狙っている。アートとは一見縁遠いジャンルとのコラボレーションを通して、新ジャンルの客層を開拓することを目指した。同時に、若手作家が発表の場を得ることで、長期的な作家支援につながることも期待している。							
関連催事 (*)は公開制作と連動する制作を行い、普及係の協力を得た。 (**)は普及係実施イベント	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	市民交流イベント(*)	7月30日、8月6日、13日、20日、27日(いずれも日曜日)	アナタに褒められたくて	ながさわたかひろ	76			
	作品解説	8月20日(日)	作家によるスペシャルトーク	ながさわたかひろ	45			
	作品解説	8月11日(金・祝)、9月17日(日)	学芸員による作品解説	当館学芸員 町村悠香	32			
	対談	9月16日(土)	ながさわたかひろ×宇都宮徹壺 特別対談	ながさわたかひろ 写真家・ライター 宇都宮徹壺	23			
	中学校との連携授業(**)	7月4日	誰かと繋がる版画制作 in 町田第二中学校	ながさわたかひろ 当館学芸員 上村牧子	177			
	公開制作(**)	9月2日(土)	誰かにつながるための版画	ながさわたかひろ 当館学芸員 上村牧子	54			
観覧料	一般 600円	65歳以上 300円	大・高生 300円	※観覧料は第1企画展示室で開催の「紙の上のいきものたち！」展と合わせた料金設定とした。 ※観覧者数も第1企画展示室と一体として集計した。				
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,488人	2,529人	6,017人	3,652人	729人	260人	1,376人	人
	目標値	7,410人						
主な収入 (現在)	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源				
	1,586千円	—千円	14千円	100千円				
事業経費	・展覧会協力謝礼		150	千円				
	・イベント委託料		348	千円				
	・作品展示撤去委託料		217	千円				
	・ディスプレイ作成委託料		537	千円				
	・作品額装委託料		198	千円		計 2,248 千円		
	・展覧会ポスター等作成委託料		798	千円				

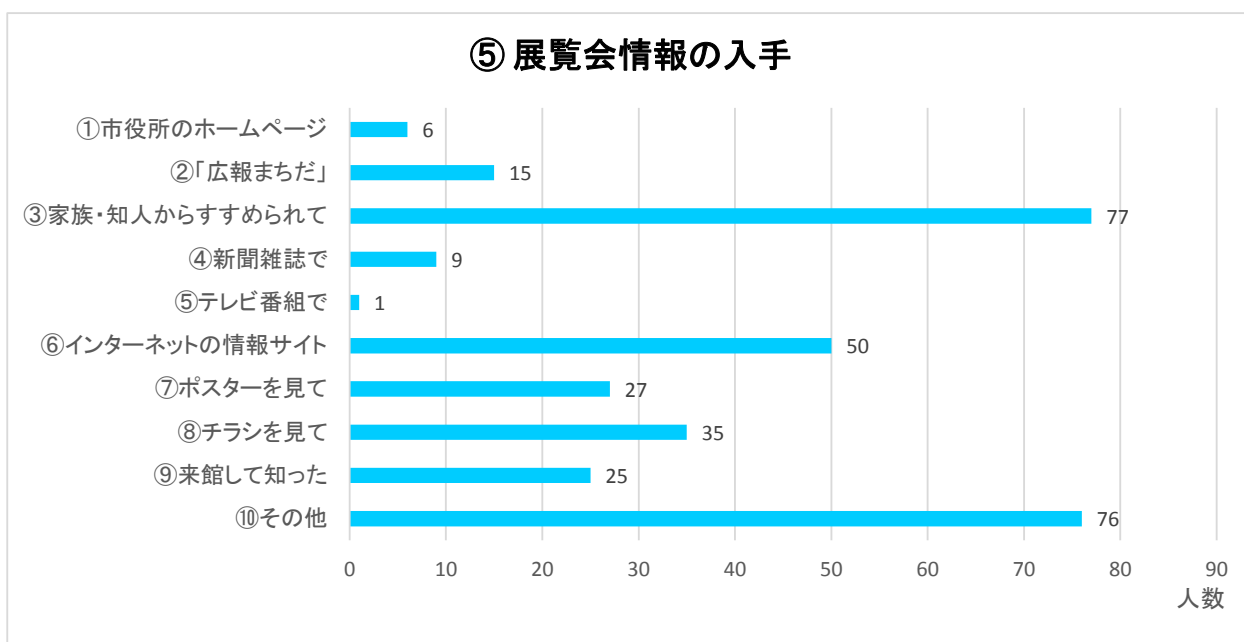
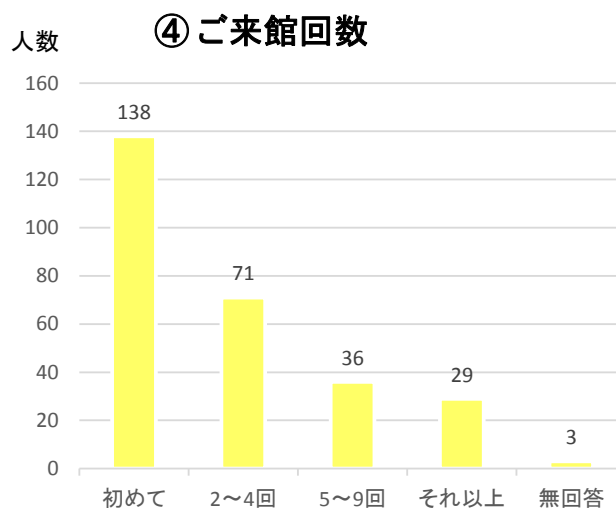
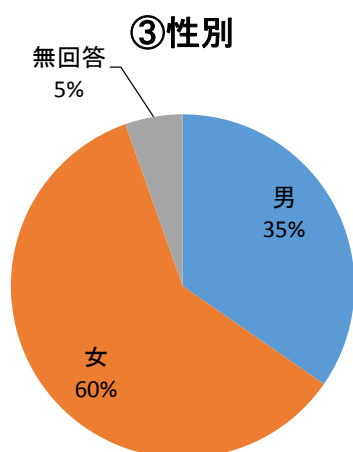
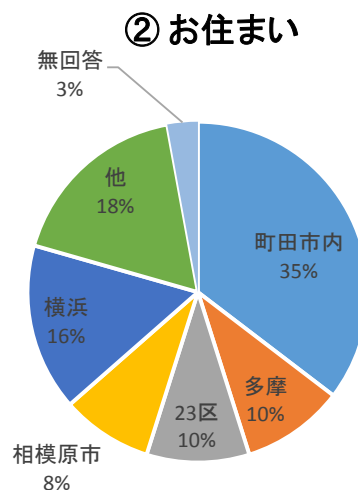
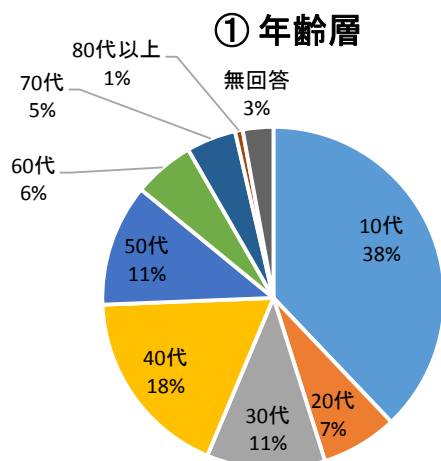
主な広報・取材等の講評	『朝日新聞(多摩版)』、『PEN ONLINE』、『ゼルビアプレス』							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
※インプリントまちだ展2017と共通	280 件	4.7 %	35 %	49 %	94 %	92 %	78 %	
	主なご意見	別紙のとおり。 ※アンケートは第1企画展示室の「紙の上のいきものたち！」展とあわせて集計した。						
反省点と改善方法	予備調査	学芸係・普及係合同の協議により作家を決定し、前年8月頃に作家に展覧会を依頼した。1月中旬から作家が展覧会の取材を始めたのと平行し、作家の活動を取材し、綿密に打合せをしながら内容を検討していった。						
	作品選択	作家への聞き取りをもとに作品の調査を行い、選定した。これまで表に出る機会が少なかった摸索期の抽象作品も紹介することで、現在の活動に至る過程への理解が深まるよう工夫した。また、日記のように野球の試合を毎日1年間描くなど、作品数で圧倒する作家の活動の面白さが展示空間からも伝わるよう、企画展示室2だけで約250点もの作品を取り上げた。ただ、アンケートには「すべて見切れなかった」との意見もあり、じっくり見る作品とシリーズで見せる作品とのバランスをとる必要があったと考えている。						
	図録作成	リーフレット(A3二つ折り)を作成し、作家紹介、図版、リストを掲載した。あわせて作家の生の声を伝えるため、作家へのインタビューと作家本人による作品解説を掲載した図録を作成した。これによりアーカイブとしての価値が高まったと感じる。展示室入口ではリーフレットとともに「選手カード」も配布し、こちらは特に子どもやゼルビアファンに好評だった。しかし、配布物の種類が多かったため残部も多くなってしまった。今後は種類を絞って印刷物を制作していきたい。						
	ディスプレイ	立体的な展示を目指し、可動壁を利用して展示壁面に動きを持たせた。またテーマを空間にも反映させるため、野球を描いた作品の上には作家が過去に作成した「胸上げパネル」を展示壁面上部に設置した。サッカーを描いた作品の前には緑色と茶色のバンチカーペットを敷き、作家のプロフィール写真はスタジアムで撮影したものを使用するなどフィールドをイメージさせる工夫をした。一方で、作品数が多く動線が分かりにくかったとの指摘を受け、会期中に案内表示を追加する対応をした。						
	広報	スポーツファン、特にゼルビアファンに向けた広報に力を入れた。ゼルビアのホームゲーム時にスタジアム周辺で開催されたイベントに作家が参加し展覧会を告知し、ゼルビアボランティアの協力を得てスタジアム来場者に対して会期前と会期終了間際の2日間でちらしを計1500枚を配布した。チームの協力を得て選手が展覧会に来場し、新聞記事の掲載につながった。展示室に家族でユニフォームを着て来館する方も多く見られ、アンケート結果も新しい客層の開拓に繋がったと考えられる。						
	イベント	実際に銅版画制作をしている姿を来館者が見られるよう、作家が展示室内で来館者と交流しながら希望者の似顔絵を描く公開制作を会期の前半で5回実施した。大人から子どもまで参加することができたことで作家や作品に親しみをもち、リピーターとなる来館者も多かった。作家の作品解説では、創作にかける熱い言葉に多くの人が胸を打たれ、好評を得た。一方で、会期中のイベント数も多く、結果的に集客が分散した部分もあったと感じている。今後のイベントの内容や回数、設定日に工夫が必要である。						
	作品輸送	作品輸送は庁用車を利用し、特に大きな問題はなかった。						
	展示撤去	展示最終日の終了時間が遅くなってしまった。立体物やCDプレイヤーの展示の工夫をあらかじめ考慮すべきだった。						
その他特記事項	招聘作家の尽力により、インプリントまちだ展を企画するにあたって掲げた目標に近づけたと感じている。これまで当館では若手作家の個展をあまり開催してこなかったが、リピーターからも新しい試みに対して概ね好意的な意見が寄せられたことに安堵した。作家の制作コンセプトはプロジェクト性が高く、普及係との強い連携があったおかげで現在進行形のアートが体感できる内容に近づけた。作家の希望に沿うためには多くの調整を伴うが、今後も課内の密な協力と情報共有によって企画を進めていきたい。							

「インプリントまちだ展2017」

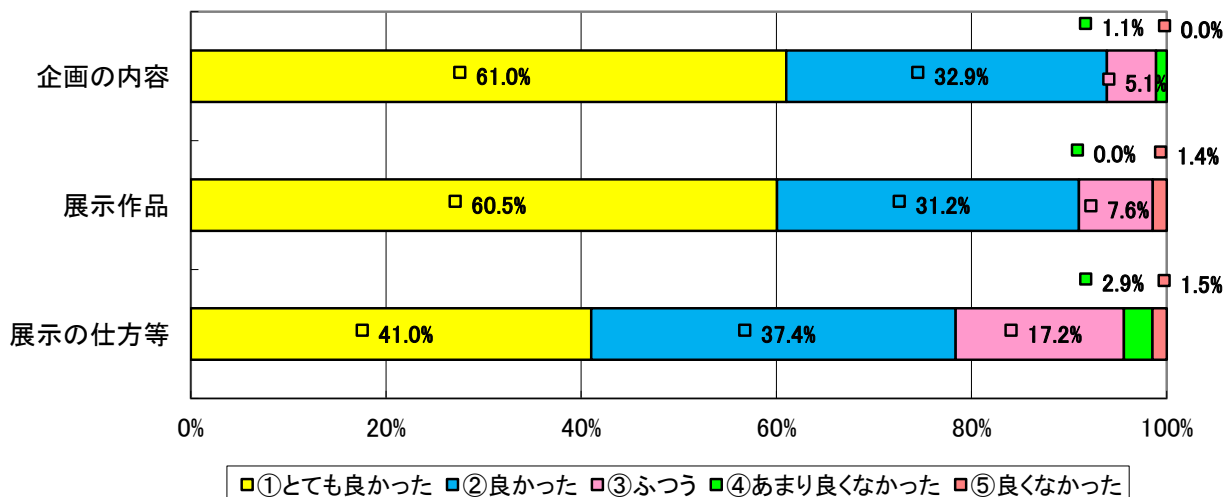
アンケート集計結果

開催期間：2017年7月29日（土）～9月24日（日）

回答者数： 280 人（総入館者数：6,017人 アンケート回収率： 4.7%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想（紙の上のいきものたち展との重複は一部省略）

招聘作家に対して

◆ながさわつかひろの人としての魅力と作品の魅力の両方に圧倒された。ゼルビアに関心がなかったけれど、またながさわさんの作品を見たいと思いました。◆ゼルビアへの緻密な取材と書き込みの徹底ぶりにすっかりファンになりました。◆ながさわつかひろにアートを感じました。◆ながさわさんの展示が面白かったです。量にも驚きました。「に・褒められたくて」シリーズも好きですが、卒制の作品も胸にくるものがありました。◆ながさわさん本人に会いたくなる展示でした。応援し続ける姿を応援しています！

全体について

◆夏休みの宿題できました。作品も多く、書きやすかった。ゼルビアがとてもよかった。◆今回のゼルビアの企画は新しい試みで良いと思う。◆選手が来るということでゼルビアファンでもあり来てみました。緻密な表現ですばらしい作品の数々だと思います。◆今回は学校のレポートをかく宿題で来館した。美術館は中学生が無料で、インターネットの評判もよかったので版画美術館を選んだ。◆孫の夏休みの宿題につきあつて来た。◆あまり興味のなかったものに触れて、興味がわくようになったので来てよかったです。◆何十回とこの会場には来ているのですが自分でお金を払ったのは今回が初めて。ゼルビアファンにとってそれほどの企画でした！◆地域に根ざした企画をこれからも見たい。◆スポーツがテーマだったので親しみやすかった。地域のスポーツや芸術が一体化してできる町田の活性化に期待したい。◆学芸員による作品解説では、裏話が聞けたとともに作家の視点とは異なり客観的に整理された話が聞けてよかった

検討事項

◆トークフリーデーがうるさい。◆順路が少し分かりにくかった。◆（監視員が）もう少し親切だと良いと思いました。◆照明が少し暗いのでは？◆細かい文字を見るので、もう少し明るいと良かった。◆もうちょっと説明書きがあっても良かった。◆お子さんに喜ばれる企画（スタンプ、グッズ、クイズなど）があると人気ができるかもしれません。◆見る順番がわからない。◆監視員が細かく注意にきた。注意事項を当たり前のごとでも書いてあったほうがわかりやすいです。◆監視員の目が厳しい。落ち着いて鑑賞できない。◆順路がわかりにくいです。出口の表示が明確でないのは、防災上も危険だと思います。◆壁面の穴を塞いだ跡が目立っていた。館に通じる急坂が、少し危ないかと思いました。◆子供向けに学芸員が解説するイベントがあると楽しい◆展示作品をもっと隙間を空けて展示したほうがよい。◆細かい絵でとても見切れないのがもったいない。◆子どもにも見える高さで作品を展示して欲しい。

来館者層は10代が最も多く、次が40代だった。同時開催の「紙の上のいきものたち！」展が子どもをターゲットとしたことで、相乗効果により親子での来館者が多かったと推察される。

夏休みの宿題で来館する中学生が多く、動物やスポーツなど彼らにもアピールできる企画内容が好評を得たと考えられる。

今回はゼルビアから広報でも全面的な協力を得られたので、そこでのHPやツイッターなどSNSの効果が大きく、市内での認知度を高められる機会となった。はじめて来館する方の割合が高かったのもゼルビアとのコラボレーションの効果や、作家がこれまで築いてきたファンの来館が大きかったと考えられる。

意見・感想からは、子ども向けの内容をはじめ、写真撮影、トークフリーデー、展示順路、監視員へのについての賛否が多数を占めた。また、ながさわ氏への作品に対しての好意的な意見も多く、地域のサッカーチームを取り上げるといふほかではない切り口を評価する声も多かった。